

2013年大学入試センター試験【講評(速報)】 政治経済

総評 難易度は若干難化

大問数5題は昨年と同じだが、解答数は昨年の38個から36個に減少した。政治分野と経済分野の出題割合では、昨年よりも経済分野の割合が上昇した。文章選択問題を中心に、基礎的知識と論理的思考力を問う傾向は例年通りだが、選択肢の文章が2行のものが増加した。適切であるかどうかを全て判別する必要のある7択問題や、リード文全体の主題と関連するものを選ばせる問題など、新傾向の問題も見られた。全体としては基本的な設問が中心であるが、昨年より若干難化したといえる。

講評

第1問 国家の役割 (解答数10個・28点)

例年通り、第1問は政治・経済の融合問題であった。福祉国家のあり方を中心テーマとしつつ、幅広く基本事項が問われた。問4は、国民経済の諸指標の理解を問う典型的な計算問題であった。問9は新傾向の問題であり、知識の確実性が要求された。

第2問 国民福祉と経済成長 (解答数6個・17点)

国民福祉と経済成長をテーマに、経済分野について幅広く問う出題であった。問3は図表の読み取り問題であるが、主要国の社会保障支出の対GDP比などの背景知識がないと解答できない問題であった。問6は、第1問の問9と同様の新傾向の問題であり、確実な知識と理解が要求された。

第3問 民主主義と国際情勢 (解答個数7個・19点)

昨年同様、時事的な話題の会話文による出題だが、本年は政治分野に関する知識と理解が問われた。問2は第2問の問3同様、背景知識とグラフの読み取りを組み合わせさせて解答させる形式の問題であった。問4は3年ぶりの地図問題で、時事的な知識・関心を問う問題であった。

第4問 市場取引のルール (解答個数7個・19点)

市場取引のルールを主題としつつ、経済分野の基本的知識が幅広く出題された。問4は、典型的な需要供給曲線の問題であるが、リード文とグラフの双方をていねいに読み取ることが要求された。問5と問7では、歴史的知識が問われた。

第5問 国境の意義 (解答個数6個・17点)

現代における国境の意義を主題とし、国際政治分野・国際経済分野から幅広く出題された。問1では、リード文の主題と密接な関連性をもつ出来事を選ばせるという新傾向の出題があった。問6の図表問題も新傾向といえるが、問われていること自体は基本的な知識であった。